

第2学年 道徳学習指導案

指導者 盛岡市立上田中学校教諭 村松 正博

- 1 日時 平成19年2月7日(水) 2校時
- 2 学級 2年2組 男子20名、女子16名、計36名 大会議室(北校舎3階)
- 3 主題名 「向上心、個性の伸長」【1-(5)】
資料名 「たゆまぬユーモアは頑健な体をしのぐ」
中学道徳2 かけがえのないきみだから(学研・中2)

4 主題について

内容項目1-(5)は「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。」ことを目指している。中学生の時期というのは精神的にも大きく成長する時期でもあるが、周囲との関わりを敏感に感じながら優越感や劣等感等、様々な思いの中で自分自身の存在に思い悩む難しい時期でもある。また、今の時代は多くの情報が飛び交い、いじめ、自殺、ひきこもり、ニート等多くの社会的な問題が起きている。老若男女を問わず、一人の人間が人間として生きることの価値を冷静に考えることは難しくなっている。心も体も大きく成長する中学生の時期だからこそ、これまでの自分や現在の自分、そして将来こうありたいという自分を見つめ直し、自己の向上を願って生きていくことが重要になってくる。優れた先人や周囲の人々の生き方に学び、自己の優れている面の発見に努め、自己の向上のために必要なものを広い視野で見つけようとする態度を育てたいと考え、この主題を設定した。

本学級の生徒の多くは、誰とでも自然に活動を行える雰囲気がある。男子は幼い生徒と大人びた生徒の差が大きく、女子は明るく前向きであり、活発に行動する生徒が多い。一方で、自分の考えをしっかりと持っているが、考えを主張したり様々な意見を交換し合ったりすることについては、遠慮をして消極的になる傾向が強い。道徳の時間においても、学習シートから資料や授業を通して考えたこと、感じたこと等を素直に表現している生徒が多いことは分かるが、発表を通して自分の考えを表現することに抵抗を持っている生徒も少なくない。一人一人にはそれぞれ個性があり、互いに認め合うことが大切だということ、日常生活が多くの活動の是非を問う基盤になっているという意識は持っている。この資料を通して、向上心を持ち前向きに生きるには、様々な考え方があるということに気付かせたい。

本資料は五木寛之の随筆で、日常の生活習慣を守る人が、南極などの極限状態の中でも耐えられること、アウシュビッツ強制収容所で人間性を失わないために、ジョークを言い合って生き延びたという挿話などを紹介し、人間らしさを失わない心の大切さを示唆している。人間が向上心を持って前向きに生きるために大切なものを考えさせ、確かめ合って本時のねらいに迫りたい。

5 本時のねらい

どんな時代、どんな環境でも人間らしさを失わない心の大切さに気づき、前向きに生きていく態度を育てる。

6 本時の指導の構想

資料の内容に書かれている「アウシュビッツ」は生徒にとって全く経験のないこと、考えられないことなので、社会の授業において「明日の命が保証されていない」「食事は腐った野菜スープ」「働けなくなったら殺される」等を学び、知識として持たせたい。また、今までの生活経験の範囲で、「極限状態」で大切なものを事前に考えさせておくことで、資料への関心を高めていきたい。

授業の前半では、南極の「極限状態」で弱音を吐かない人の強さに感心させ、アウシュビッツの「極限状態」で生き抜いた人の考え方、行動した意味をとらえさせたい。そして、人間が生きていく上で何が支えになるのかを考えさせ価値に迫りたい。

また、後半では筆者「五木寛之」が今を生きる人たちに何を伝えたいかをくみとりながら、今後の生活の中で何を大切にしていきたいか考えさせる。

7 本時の評価の観点

どんな時も人間性を失わず、自分らしさを維持続けることは、前向きに生きていくための重要課題であることに気付くことが出来たか。

8 展 開

	学 習 活 動	期待される生徒の反応	留 意 点
導 入 12 分	<p>事前プリントの内容紹介 ・ 極限の状況では何が大切か。</p> <p>事前指導の想起 資料の配布、範読</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べていくことが必要だ。 ・ 辛い時にも強い気持ちを持ち続けることが大切だと思う。 ・ 生き抜く知識・信念が必要になると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの生活経験の中から考えさせ、事前に考え、記入させておく。 ・ 社会科での既習事項の想起
展 開 28 分	<p>1 南極で弱音を吐かなかった人たちはどんな人たちだったか。</p> <p>礼儀や身だしなみに気をつけた人たちのことをあなたは どう思うか。</p> <p>2 アウシュビッツの極限状態の中で、互いにジョークを言って笑い合った人はなぜ生き残ることができたのだろうか。</p> <p style="text-align: center;">中心発問</p> <p>3 極限状態で、人を支えるものは何だろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 礼儀やみだしなみ等社会的マナーを確実に実行できた人だと思う。 ・ 小さい時からの生活態度を守り続けてきた人が弱音を吐かない。 ・ そんなことは余裕がある時にしかない。 ・ すごいな。出来ない。 ・ 私には到底無理だ。 ・ 笑うと気持ちが明るくなって少しでも苦しみから逃れることができるから。 ・ 心が楽になって、少し元気になる。 ・ ユーモアを持って明るく生きていこうとする前向きな考え方が大切だと思う。 ・ 自分自身をしっかり持つことじゃないか。 ・ プラス思考が大切。 ・ 希望や夢を持つこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかなか真似できないということを引き出しておきたい。 ・ 苦しい状況でも笑うことの意味を捉えさせたい。 ・ 資料の読み取りで終わらないように、必要に応じて補助発問をしていく。 ・ 南極の場面を振り返らせ、同じことが言えることを伝える。
終 末 10 分	<p>4 どんな環境で生きるとしても、何を大切にしていきたいか。</p> <p>5 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分らしさを大切に持ち続けることだと思う。 ・ 自分らしさを失わず、前向きに生きていくこと。 ・ 感情を持ち人間的な生活をする事だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間は人間性を持つことが大切であること、心と体はつながっていることを感じ取らせたい。 ・ 本時の学習を通して向上しようとする気持ちの大切さを伝える。

5 資料分析表

場 面	筆者の意識	学習者の意識	意識の焦点化	主な発問
現在は大変な時代であり、何が生きていく上で大きな支えになるのか。	<ul style="list-style-type: none"> 健康な体、たくましい体だけがあればいいだけはない。 	<ul style="list-style-type: none"> 何が必要なのか。 強い心 食べ物 知識、信念 	<ul style="list-style-type: none"> 大変な時代を生きていくために必要な事は何なのか考えさせる。 	<p>極限の状況では何が大切なのだろう。</p>
<p>極限状態：その1</p> <p>南極の極地で服装を整え、礼儀を忘れず、自分の生活態度を守り続けたタイプの人が弱音を吐かない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小さい時からの自分の生活態度を守り続けてきた人が弱音を吐かないというのは、新しいサバイバルの方法ともいえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 礼儀、身だしなみが大切。 生活態度が大切 すごい 私は出来ない 	<ul style="list-style-type: none"> 極限状態という環境の変化に関係なく、自分の生活態度を守るといふことの凄さに共感させる。 	<p>南極で弱音を吐かなかった人たちはどんな人たちでしたか。また、礼儀や身だしなみに気をつけた人たちのことをあなたはどのように思いますか。</p>
<p>極限状態：その2</p> <p>アウシュビッツの強制収容所で、互いにジョークを言って笑い合う事をノルマのように決めて実行した人が奇蹟の生還をした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人間が人間性を失わない事が魂を支えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦しみから逃れる事が出来る 希望が持てる 気持ちが明るくなる 元気になる 	<ul style="list-style-type: none"> 人間的な感情を持ち続ける事、人間的な生活をする事は生きる上で大切だということをおさえる。 	<p>アウシュビッツの極限状態の中で互いにジョークを言って笑い合うことはどうして大切だったと思いますか。</p>
人間が健康とか体力だけで厳しい条件に耐えられるものではない	<ul style="list-style-type: none"> 人間が生きていく中で大切なのは、体だけではなく心も大切なのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆとり 余裕 礼儀、ユーモア 人間らしさを失わない心 人を思う気持ち 	<ul style="list-style-type: none"> 人間性のある生活を続ける事によって、無意識のうちに、生きる上での支えが創られている事に気付かせたい。 	<p>極限状態で、人を支えるものは何だろうか。</p> <p>筆者はどんな願いからこれらの話を紹介したのだろうか。</p>

道徳事前アンケート

組 番 氏名

みなさんは13年間、14年間の人生経験を積んできました。その中で楽しかったこと、嬉しかったこと、苦しかったこと、辛いこと等たくさんあったと思います。その中で最も（最もと考えられる）「苦しかった～」「辛かった～」という状況を思い出して下さい。

どんな時でしたか？簡単に書き出して下さい。

その時は恐らく、自分が自分でないような感覚、食べること、寝ること等普段の生活にも様々な影響があったのではないかと思います。

そんな苦しい時、何が大切でしたか？

協力ありがとうございました。